



|                   |         |
|-------------------|---------|
| Data              | 2024-67 |
| 監督・脚本: カン・ジェギョ    |         |
| 出演: ハン・ソッキュ/キム・ユン |         |
| ジン/チェ・ミンシク/ソ      |         |
| ン・ガンホ/パク・ヨンウ      |         |
|                   |         |
|                   |         |
|                   |         |
|                   |         |
|                   |         |
|                   |         |

## 👁️👁️ みどころ

「永く観ることが叶わなかった韓流の＜原点にして頂点＞25 年の時を経て 4K デジタルリマスターされ、感動も新たに鮮烈にスクリーンに甦る！」こんな“見出し”がピッタリの本作だが、「SHIRI ～シュリ～」って一体ナニ？本作を鑑賞するについては、そこから勉強し、“愛と衝撃の大傑作”の全貌をしっかりと味わいたい。

2024 年の今、南北関係は最悪！再び朝鮮戦争が勃発しそうな情勢だが、本作が描く、2002 年サッカーW杯に向けての南北朝鮮統一チーム結成は南北融和の象徴だった。しかし、チェ・ミンシク扮する北朝鮮工作員の思惑は？また若き日のハン・ソッキュとソン・ガンホがコンビを組む韓国側情報部員の思惑は？

“南北分断の悲劇と愛のコントラスト”はお見事！25 年前の感動を今、大スクリーンでもう一度！

## ■□■こりゃ必見！あの名作が 25 年の時を経て 4K で甦る！■□■

本作のパンフレットには、本作の不思議なタイトルである「SHIRI ～シュリ～」について、「朝鮮半島固有種であるコイ科の淡水魚」であること、「古来より形の美しさで知られるが、流れのある冷たい水の中でしか生きられないため飼育はかなり難しいといわれている」こと、が解説されている。他方、「永く観ることが叶わなかった韓流の＜原点にして頂点＞25 年の時を経て 4K デジタルリマスターされ、感動も新たに鮮烈にスクリーンに甦る！」、「大スクリーンに 4K で鮮烈に際立つ南北間に横たわる悲しみと平穏な日常にある愛のコントラスト、そして、圧巻のアクションと壮大なクライマックスを没入し体感する至極の映画体験！」、「映画の世界地図を書き換えた、愛と衝撃の大傑作」という見出しと、

本作のストーリーの短い紹介がある。普通はこれだけ大袈裟な見出しが付けられると気恥ずかしいものだが、本作に限っては否！本作はまさにこのレベルの見出しがピッタリの名作中の名作だから、こりゃ必見！何をおいても、いざスクリーンへ！

## ■韓国映画史は『シュリ』〈以前〉と〈以後〉に分けられる■

本作のパンフレットには、崔盛旭氏（映画研究者）の「韓国映画史は『シュリ』〈以前〉と〈以後〉に分けられる」と題された見開き 2 頁のコラムがある。現在の西暦は 2024 年だが、西暦は紀元前（BC）と紀元後（AC）に分けられている。それを分けるのは、イエス・キリストの誕生前（before Christ）と誕生後（after Christ）だ。そのことを世界中の人類は何の疑いもなく受け入れているが、「韓国映画は『シュリ』以前と『シュリ』以後に分けられる」ことを、あなたは受け入れることができる？もちろん、それに異議のある人もいるだろうが、私は「受け入れられる派」。つまり、それほど、本作が韓国映画に与えた衝撃と影響力が大きかったということだ。

なお、同コラムに掲載されている〈『シュリ』以後の韓国映画四半世紀の年表〉を下記に掲載するが、私はそのほとんどを鑑賞している。

| ＜『シュリ』以後の韓国映画四半世紀の年表＞ |                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1999年                 | 『シュリ』（監督：カンジュギョ）                                                                                                                                                                                                                         |
| 2000年                 | 『過人』（監督：バク・チャック）3D画面上の共同音源区域を舞台に海軍兵士の交流を描く。                                                                                                                                                                                              |
| 2003年                 | 『オールドボーイ』（監督：バク・チャック）カンタ国際映画祭グランプリ受賞。韓国映画の国際化を象徴。<br>『シムギ』（監督：カンジュギョ）韓国映画史上初、観客動員1000万人突破。南北の歴史に基き込んだ。<br>『殺人の追憶』（監督：ボムジュン）連続殺人事件と軍事独裁の背景を描く。ボムジュンの出世作。                                                                                  |
| 2004年                 | 『バザーワード』（監督：カンジュギョ）『シュリ』の監督が朝鮮戦争を題材に描き、観客動員1000万人達成。                                                                                                                                                                                     |
| 2006年                 | 『ワイルド・ランニングの怪物』（監督：ボムジュン）観客動員1300万人以上の大ヒット。北米をベースにした韓国語“ゴジラ”。                                                                                                                                                                            |
| 2008年                 | 『チェイサー』（監督：ナム・ジン）豪華な俳優陣等と高度な、韓国を舞台とした映画の金字塔。<br>『クロッシング』（監督：キム・テジョン）南北の衝突を通して朝鮮の人権問題を扱った「新長片映画」。                                                                                                                                         |
| 2013年                 | 『イン・ザ・ファニー』（監督：イ・ジウヒョン）韓国に侵入した北朝鮮スパイと韓国国家の交流を描く。                                                                                                                                                                                         |
| 2014年                 | 『海軍兵隊で遊ぼう』（監督：カンジュギョ）一人の男性の生涯を通して韓国近代史を描く。観客動員1400万人の大ヒット作。<br>『海に光る像』（監督：ナム・ジン）韓国における「中国新航路」の存在を浮き彫りにする。                                                                                                                                |
| 2016年                 | 『熱帯夜、フィナーレ・はたして』（監督：カン・ジン）『イン・ザ・ファニー』という韓国映画の新たなジャンルを開く。                                                                                                                                                                                 |
| 2017年                 | 『タラン・ランタン』内東は海を越えて』（監督：ナム・ジン）九州事件の歴史が改めて海外に認知された。観客動員1200万人の大ヒット作。<br>『1947、ある朝の夜』（監督：ナム・ジン）韓国独立の大きな一歩となった1947年の6月抗争を描く。<br>『朝鮮の海』（監督：ナム・ジン）北朝鮮で動員した朝鮮半島の危機を舞台に描く。韓国映画界の歴史を振り返る。<br>『朝鮮都市』（監督：カン・ジン）シリーズ全作1000万人以上の動員を記録。アジア映画界、マドンナの誕生。 |
| 2019年                 | 『バザーワード』半城下の歴史。（監督：ボムジュン）カンタ国際映画祭受賞。オールドボーイ・過人4部門受賞韓国映画の頂点に。                                                                                                                                                                             |
| 2020年                 | 『KQIA 南島の風光』（監督：カン・ジン）朴正熙を題材にしたKQIA部長、ナム・ジンによる。                                                                                                                                                                                          |
| 2023年                 | 『ソウルの夢』（監督：ナム・ジン）1979年12月12日の金日成による軍事クーデターを描く。観客動員1300万人を記録。                                                                                                                                                                             |

その動機になったのは、何といても本作を鑑賞した衝撃によるものだから、まさに BC と AC の区分と同じく「韓国映画は『シュリ』〈以前〉と〈以後〉に分けられる」との崔氏の主張に私は同意！

## ■25 年の経過を 3 人の俳優の若き日の姿から実感！■

幕末モノや明治維新モノは邦画特有のテーマだが、南北（朝鮮）分断問題は韓国映画特

有のテーマだ。そして、前述の崔氏のコラムの通り、まさに本作こそ「韓国映画のルネサンスを切り開き、ハリウッドを乗り越えて世界へ」羽ばたいた映画だが、その主役を張った男優は、①韓国の情報部長長のユ・ジュンウォン（ハン・ソッキュ）と②相棒のイ・ジャンギル（ソン・ガンホ）、そして③北朝鮮第8部特殊部隊のパク・ムヨン（チェ・ミンシク）だ。本作以降のこの3人の俳優の出世競争を見ると『JSA』（00年）（『シネマ1』62頁）、『殺人の追憶』（03年）（『シネマ4』240頁）、『タクシー運転手 ～約束は海を越えて～』（17年）（『シネマ42』248頁）、『パラサイト 半地下の家族』（19年）（『シネマ46』14頁）、『ベイビー・ブローカー』（22年）（『シネマ51』201頁）等のソン・ガンホがトップで、『オールド・ボーイ』（03年）（『シネマ6』52頁）、『親切なクムジャさん』（05年）（『シネマ9』222頁）、『悪魔を見た』（10年）（『シネマ26』185頁）等のチェ・ミンシクが続き、ハン・ソッキュは本作以後あまり作品に恵まれていない。

本作のパンフレットには、佐藤結氏（映画ライター）の「若かりしキャスト陣が魅せた『シュリ』での名演と25年にわたる活躍の変遷」があるので、そのタイトル通りの興味を持ってこれは必読！また、カン・ジェギョ監督の「『シュリ』の出演者たちが、韓国映画の柱として今後も長く活躍してくれることを期待したいです」とのインタビューもあり、そこでも「韓国を代表する俳優たちの25年前の姿を見るのも新たな楽しみだろうと思います。」と書かれているが、まさにその通りだ。

他方、女優については、本作がデビュー作になったというキム・ユンジンの一人二役ぶりに注目！一人二役は、先日亡くなったフランスの名優アラン・ドロンの『アラン・ドロンのゾロ』（75年）や、ディカプリオの『仮面の男』（98年）等の名作があるが、本作で北朝鮮の女性工作員イ・バンヒ役と、ユ・ジュンウォンとの結婚を1ヶ月後に控えた、アクア・ショップを経営する恋人、イ・ミョンヒョン役という、全く正反対の二役の演技にも注目！私は1999年2月13日に韓国で公開され、『タイタニック』（97年）の記録を破る621万人を動員したという本作を、翌2000年に日本で公開された直後に鑑賞したが、まさにパンフレットの見出し通りの内容に衝撃を受けた。そして、私が映画評論書きを始めるきっかけになった映画の1本が本作だ。25年後の今、75歳にしてそんな本作を再度4Kデジタルリマスター版で鑑賞し、若き日の3人の名優たちの姿や鮮烈なデビューを伴った女優、キム・ユンジンの素晴らしい演技を鑑賞できたことに感謝！

## ■ “OP” の任務は？北朝鮮工作員の任務は？ ■

1999年2月に韓国で公開された本作の冒頭の時代設定は、1998年9月。その時期、私は都市計画学会の石川賞を受賞した著書、『まちづくりの法と政策』（00年）の元になった、愛媛大学法文学部での4日間の集中講義等で忙しく弁護士業務に励んでいた。しかし、その時ソウルでは、2002年のサッカーW杯に向け南北朝鮮統一チームが結成され、その選手選抜を兼ねた南北交流試合が行われるというニュースに湧いていたらしい。

2024年9月の今、親日派の尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領が少しずつ米韓同盟を強

化していることに反発する北朝鮮の3代目のリーダー・金正恩（キム・ジョンウン）は祖国統一を諦め、「韓国を敵国」とみなしているから、朝鮮半島の南北関係は今や最悪！25年前に本作が公開された時の、南北問題の融和時代とは大違いだ。もっとも、そんな時代状況であっても、韓国の情報機関“OP”の情報部員であるユ・ジュンウォンと相棒のイ・ジャンギルは多発する要人暗殺事件の捜査に奔走していた。一連の事件の背後にイ・バンヒと呼ばれる北朝鮮の女性工作員の存在を把握していたが、イ・バンヒの所在は杳として知れなかった。そんな中、ユ・ジュンウォンとイ・ジャンギルは、彼女が属するテロ組織が国防科学研究所が開発した強力な破壊力を持つ液体爆弾 CTX を狙っていること、そしてソウルがそれを用いてのテロ計画の脅威の下にあることを知ったが、輸送中の CTX が強奪されてしまった上、その犯人がかつての爆弾テロの犯人であるパク・ムヨンだと判明したからビックリ！OPに所属するユ・ジュンウォンとイ・ジャンギルが自己の任務を誠実に果たそうとする姿は立派だが、鍛え抜かれた北朝鮮の工作員であるパク・ムヨンやイ・バンヒの任務達成に向けた姿に比べると明らかに見劣りが・・・？どうしても、そうしてしまうのは、ユ・ジュンウォンが任務に従事しながらも、1ヶ月後に結婚を控えたイ・ミョンヒョンとの恋を同時並行的にこなしていることや、イ・ジャンギルがそれを懸命に応援している姿を見せられるからだ。韓国は北朝鮮と異なり、自由主義、民主主義の国だから、仕事は仕事として、別途プライベートな時間が保障され、また恋愛の自由も保障されているから、そんな姿は当然だが、パク・ムヨンやイ・バンヒの任務一筋の姿に比べると、どこかに甘さが・・・？さらにユ・ジュンウォンは自分が OP の情報部員として重要かつ危険な任務に就いていることをイ・ミョンヒョンに打ち明けられないまま1ヶ月後の結婚を迎えようとしていたから、その点でのユ・ジュンウォンの悩みも深刻だ。本作では、そんな“男の仕事ぶり”に見る、韓国と北朝鮮の違いもしっかり考えたい。

## ■南北分断の悲しみと愛のコントラストが見事！■

アメリカの南北戦争でも、南北に対立したベトナム戦争でも、南北分断の悲しみは深刻だが、朝鮮戦争（50～53年）の停戦後に朝鮮半島で生まれた南北分断の悲劇も深刻だ。ちなみに、1945年8月15日の敗戦を迎えた日本は、アメリカに占領されたから良かったものの、北からのソ連の侵攻がもうしばらく続いていたら、南北に長い日本列島は北海道はもとより、東北地方までソ連に占領され、“日本民族の南北分断”という悲劇が生まれていた可能性が高い。

ならば、北朝鮮と韓国に二分された南北分断の悲劇を解決するにはどうすればいいの？パク・ムヨンはその答えを長い間政治家（政治家？）に委ねてきたが、「それではダメだ」と悟ったため、“ある作戦”を断行するらしいから、それに注目！本作導入部で断片的に示される北朝鮮の女工作員イ・バンヒは今どこに潜入し、何を狙っているの？万一、工作員として並外れた能力を持つ彼女がパク・ムヨンと組んで CTX を強奪し、それをソウルで爆発させれば、南北の融和ムードは一体どうなるの？

『ジュリ』以降の南北分断の悲劇をテーマにした映画には、『JSA』(00年)、『シルミド』(03年)、『シネマ4』202頁)、『ブラザーフッド』(04年)、『シネマ4』207頁)、『レッド・ファミリー』(13年)、『シネマ33』227頁)、『国際市場で逢いましょう』(14年)、『シネマ36』58頁)等々の名作があるが、本作がすごいのは、南北分断の悲劇というテーマと共に、「平和な日常にある愛のコントラスト」を見事に描いたことだ。『ロミオとジュリエット』はキャピュレット家とモンタギュー家の対立の中で生まれた若者たちの愛が悲劇的な結末に至る姿を見事に描いたが、本作もそれに負けず劣らず、ユ・ジュンウォンとイ・ミョンヒョンの愛が悲劇的な結末に至る“必然”を見事に描いているので、それに注目！本作に見る、南北分断の悲しみと愛のコントラストは、実にお見事！

## ■なぜ試合中に貴賓席の電灯が？CTXが爆発したら？■

ボクシング映画では、『ロッキー』シリーズを筆頭として、そのクライマックスは必ずリング上での壮絶な打ち合いになる。しかし、南北分断をテーマにした韓国映画のクライマックスは、ストーリー設定の如何によって如何ようにも設定することができる。

しかして、本作のクライマックスは、冒頭に提示された2002年のサッカーW杯に向けて結成された南北チームの選手選抜を兼ねた南北交流試合になる。満員の甲子園球場には約5万人の観客が入ることができるが、南北の首脳が揃って出席したソウルのスタジアムも数万人の観客で溢れ返っていた。もっとも、本作がそんなサッカーの試合の行方には全く関心を示さず、CTXでスタジアムの爆破を目指すパク・ムヨン率いる北朝鮮第8部特殊部隊の姿と、やっと彼らの狙いを見抜き、爆破阻止のためにスタジアムに急行するユ・ジュンウォンとイ・ジャンギルたちの姿に焦点を当てたのは当然だ。また、コトここに至って、ユ・ジュンウォンとの結婚式を目前に控えていたイ・ミョンヒョンが、実は北朝鮮の女性工作員イ・バンヒであったことが明らかになっていたから、ユ・ジュンウォンの心境は如何に？そのイ・ミョンヒョンは、今もイ・バンヒではなく、イ・ミョンヒョンとして観客席に座ったが、彼女の視線は一体どこに？

パク・ムヨン率いる北朝鮮第8部特殊部隊が一路目指したのは、スタジアムの電気制御室。同室を制圧したパク・ムヨンは、機器を操る係員に対して「貴賓席の電灯を点けろ」と命じたが、それは一体なぜ？南北交流試合がナイターで行われているのなら電灯を点けるのは当然だが、真昼間に行われている試合なのに、なぜ貴賓席にだけ電灯を点けることを要求したの？そこが本作のクライマックスに向かう大きなポイントだが、そこでのカン・ジェギョ監督の狙いについては、あなた自身の感性でしっかり把握してもらいたい。さあ、本作のクライマックスはどうなるの？CTXは爆発するの？もし、そうならばスタジアムは？そしてまた、数万の観客の命は？試合を観戦している南北の首脳たちの命は？

2024（令和6）年9月27日記